

# 障害者の文化芸術活動を振興するための取組について

平成27年6月30日(火)

文化庁文化部芸術文化課

# 障害者の文化芸術活動を振興するための取組について（文化庁） ～平成27年度予算における対応～

## ● 障害者の優れた芸術活動に関する調査研究の実施

・戦略的芸術文化創造推進事業 4.0億円の内数

## ● 障害者の芸術活動を支援する人材育成事業に対する支援

・新進芸術家グローバル人材育成事業 14.8億円の内数

## ● 地域の美術館等で実施される障害者の芸術作品の展示等に対する支援

○文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業（新規） 26.2億円の内数

【参考】平成26年度支援実績（地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ（前年度限り）による）

… 5件 3.1億円の内数

○地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業（新規） 13億円の内数

【参考】平成26年度支援実績（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業（前年度限り）による）

… 1件 0.4億円

## ● 海外で開催されるアートフェア等への出展に対する支援

・優れた現代美術の海外発信促進事業 1.2億円の内数

## ● 特別支援学校の生徒による作品の展示や実演芸術の発表の場を提供

・全国高等学校総合文化祭 0.8億円の内数

## ● 子供たちに対し障害のある芸術家による優れた文化芸術の鑑賞・体験機会を提供

・文化芸術による子供の育成事業 51.1億円の内数

【平成26年度実績】… 16件 51億円の内数

（例）中学校において、車いすダンスの披露や車いすダンス体験等を実施

## ● 映画製作支援事業における字幕制作に対する支援

・日本映画製作支援事業、アニメーション映画製作支援事業（字幕制作部分）

（43作品）

（7作品）

0.5億円

# 戦略的芸術文化創造推進事業

(26年度予算額 366百万円)  
 27年度予算額 401百万円

## 趣旨

芸術文化振興上の課題解決のため推進することが必要な公演、展示等の芸術活動について、着実に機動的な実施を図るため、公演・展示等の要件（分野、内容、開催地域、対象者、参加者、実施上の留意点等）を国が示し、芸術団体、関係機関等から企画提案を受け、選考した活動について、国が芸術団体等に委託して実施。

これにより、我が国の文化芸術の水準の向上と国民の鑑賞機会の充実を図り、「文化芸術立国」の推進に資する。

## 事業内容

### 課題の選定

### 要件の提示

### 企画の提案・実施

#### 【芸術文化振興上の課題例】

- 実演芸術の世界水準への向上と世界へのアピールが求められている。
- 地方での優れた実演芸術の鑑賞機会が少ない。
- 新たな観客層の開拓・育成が十分行われていない。
- 地方の芸術団体等のレベルアップが必要。
- 障害者の優れた芸術作品の展示が不十分。
- オリンピック・パラリンピックを見据えた場合、海外からの訪日者に対し、我が国の文化活動情報や魅力的な公演が十分に発信されていない。 新規

…etc

#### 要件の提示

#### 【想定される要件の例】

- 世界的な指導者等を招へいた公演の実施、世界的な評論家を招待した論評の世界への発信
- 地方における優れた公演の実施
- 観客層の掘り起こしや観客の育成につながる新たな取組を行う公演等の実施
- 地方の芸術団体等による東京公演の実施
- 障害者の優れた芸術作品の試行的展示の実施
- 伝統芸能と西洋の芸術を融合した舞台など分野を横断した我が国を代表するアーティストによる公演等の実施
- 海外から公演情報を検索、チケット購入まで可能なシステム整備のための調査研究を実施 新規

## 企画公募による事業実施

#### 【効果】

- 我が国の芸術文化の水準が世界的なものに高まる → 世界への日本文化の普及とインバウンド拡大
- 国民の優れた舞台芸術公演の鑑賞機会の充実 → 居住地域による鑑賞機会の格差の縮小
- 観客層の拡大 → 入場料収入の増 → 公演数や質の向上 → 観客層拡大といったプラスのスパイラル効果
- 障害者の芸術作品の実態把握・展示の推進 → 障害者の芸術活動の充実
- 我が国の文化を理解する外国人が増加する → 世界に敬愛される文化の国として「世界の文化交流のハブ」となる



# 新進芸術家グローバル人材育成事業

(26年度予算額 1,480百万円)  
27年度予算額 1,480百万円

## 趣旨

我が国の文化芸術を支える新進芸術家等に、基礎や技術を磨き、創造・創作の源泉となる視野、見聞を広め、幅広い知識を得るために、公演や展覧会などの実践的な研修機会やワークショップ等の実施を通して、次代を担い、世界に通用する創造性豊かな芸術家等の育成を図る。また、芸術系大学が有する人的、物的資源を活用した、アートマネジメント人材や作品を鑑賞するものと作品をつなぐ「対話型鑑賞」を提供するファシリテーターの育成を図る。

更に、国内外の実演家、プロデューサ、アートマネジメント人材等の人的交流の促進を図ることにより、文化芸術を支えるグローバル人材を育成するとともに我が国の文化芸術の海外への発信力の強化を図る。

## 事業概要

若手芸術家や演出家、舞台技術者、アートマネジメント人材など、我が国のこれからの文化芸術を担う人材を育成する観点から、実践的かつ、高度な技術・知識の習得するための研修機会（公演・展覧会、ワークショップ・セミナー等）や国際的な人的交流の機会を提供する。

### 統括芸術団体による人材育成事業

- ・若手芸術家等を対象とした、公演・展覧会、研修会、ワークショップ・セミナー等の実施

### 特色ある文化活動推進

- ・若手芸術家等を対象とした、複数の文化芸術の融合又は新しい分野の文化芸術の創造に資する公演等の実施

### 現代日本文学の海外発信基盤整備

- ・現代日本文学の翻訳・出版、翻訳コンクール等の実施



### 芸術系大学等連携における新進芸術家等人材育成

- ・芸術系大学と芸術団体が連携して行う若手芸術家等を対象とした、高度な技術・知識の習得を目的とした事業の実施

### 芸術系大学等におけるアートマネジメント人材育成

- ・芸術系大学等の資源、施設を活用したアートマネジメント人材、ファシリテーターを育成する事業の実施

### 実演芸術連携交流の推進

- ・国内におけるインターンシップや国内外の著名なプロデューサ等による国際会議等の開催 等

## 効果

- 文化芸術を支える人材の質が高まり厚みが増す
- 世界で通用する芸術家等が育成される
- 我が国の文化芸術を理解する外国人が増える



文化芸術の水準が向上  
海外での招聘公演が増える



世界への我が国の文化の普及  
我が国のブランドイメージ向上  
インバウンドの拡大  
世界における我が国の存在感の向上

# 文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業

(26年度予算額 2,522百万円)  
27年度予算額 2,621百万円

2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピック競技大会を、スポーツのみならず文化の祭典として、世界中の注目を集め、日本全国で特色ある文化活動が行われる大会にするとともに、同大会終了後も文化芸術による地域の活性化や訪日外国人の増加など、その成果が継承されるよう、地方公共団体が行う、**地域の文化資源等を活用した計画的な文化芸術活動を支援**

補助率: 1/2を上限に支援

## 支援対象の文化芸術活動

### 文化芸術創造都市としての取組

文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興等に活用し、地域課題の解決に取り組む「文化芸術創造都市」の取組

(取組例)

- ・国際的な芸術祭、音楽祭、写真展



### 文化芸術により地域を活性化する取組

地域の様々な魅力ある文化芸術を再生又は創生し発展させる取組や、大学との連携による文化芸術の創造発展につながる取組をはじめ、地域の文化芸術の担い手の育成につながる取組

(取組例)

- ・地域の音楽、踊り、演劇の公演、ワークショップ、アウトリーチ
- ・メディア芸術の展示、地域の文化資源を活用した現代アート展
- ・地域の大学教員、学生、卒業生等によるオペラ、オーケストラ公演、美術展

### 訪日外国人が鑑賞・体験できる取組

東京オリンピック・パラリンピック競技大会の**文化プログラム**を見据えた**文化事業**や、**多言語対応等**により日本人に限らず訪日外国人でも**鑑賞・体験**できる文化事業

(取組例)

- ・能楽、文楽、歌舞伎等の伝統芸能や、日本で創造された音楽、美術、演劇、舞踊等の公演、ワークショップ
- ・多言語に対応した演劇、ミュージカル等の公演、ワークショップ

### 新国立劇場との連携公演

新国立劇場が制作する世界水準の公演の鑑賞事業や、新国立劇場において地域のプロの芸術団体が行う公演



1. 文化芸術による地域活性化
2. 地域文化の国際発信
3. 文化芸術によるインバウンドの増加

### 文化の力による心の復興の取組

東日本大震災の被災地における、実演芸術の鑑賞等を通じた心の安らぎと活力の向上を図る取組



■文化芸術の振興に関する基本的な方針(第3次基本方針)(平成23年2月8日閣議決定)

美術館、博物館、図書館等が、優れた文化芸術の保存・継承、創造、交流、発信の拠点のみならず、地域の生涯学習活動、国際交流活動、ボランティア活動や観光等の拠点としても積極的に活用され、地域住民の文化芸術活動の場やコミュニケーション、感性教育、地域ブランドづくりの場としてその機能・役割を十分に発揮

■経済財政運営と改革の基本方針2014(平成26年6月24日閣議決定)

文化芸術立国を目指し、地方公共団体や民間団体等、文化芸術の振興に取り組む様々な主体との適切な連携の下、観光等他の分野との協働や産業振興等の視点も踏まえつつ、「日本遺産(Japan Heritage)」など魅力ある日本文化の発信、子どもの文化芸術体験機会の確保、国立文化施設の機能強化、文化芸術の担い手の育成、文化財の保存・活用・継承等に取り組む。

■日本再興戦略 改訂2014(平成26年6月24日閣議決定)

- ・全国の美術館、博物館、自然公園、観光地、道路、公共交通機関等において多言語対応を進める
- ・美術館・博物館、自然公園、観光地、道路、公共交通機関等における多言語対応について、「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」に従って、全国各地で多言語対応を改善・強化するとともに、高精度測位技術等ICTを活用した多言語による情報提供、ナビゲーションの高度化を推進する。

事業目的

美術館・歴史博物館が地域に存する文化財の公開促進や学芸員等の人材育成、及び訪日外国人向けの多言語化対応など、美術館・歴史博物館が従来持つ基盤を活用・強化する取組を支援することによって、美術館・歴史博物館が地域の核として文化の発信を牽引し、文化芸術立国の実現に資することを目指す。

事業内容

1 地域文化の振興と国際発信

- ①地域に存する文化財の活用 【800百万円】
  - 1 地域に存する文化財の総合把握、情報連携
  - 2 地域に存する文化財を活用するためのコミュニティー形成等
- ②多言語化による国際発信 【300百万円】
 

先進的な取組みへの支援によるモデルケースの抽出

  - ・外国語による展示解説や館内案内板表示の充実・強化
  - ・インターネットを活用した情報発信の充実・強化
  - ・外国語対応可能な人材の確保等

2 地域と共働した創造活動の支援 【521百万円】

地域へのアウトリーチ活動、ボランティア交流、学芸員等の招へい・派遣、障害者の芸術活動支援、子供を対象とした取組等を支援

3 美術館・歴史博物館重点分野の推進支援 【400百万円】

我が国の文化芸術の振興に係る諸課題のうち、美術館・歴史博物館に関わる緊急的かつ重点的な分野等の取組を支援



アートフェスティバルにおける対話プログラム



大学との連携による展示解説プログラム

■補助事業者

美術館・歴史博物館を中心とした実行委員会

■補助金額

予算の範囲内において定額

■積算件数 119件

(参考)

地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業  
平成25年度:89件 平成26年度:88件

# 芸術文化の世界への発信と新たな展開

(26年度予算額 1,097百万円)  
27年度予算額 962百万円

## 趣 旨

舞台芸術や現代アートなど、我が国の優れた芸術文化を積極的に海外に発信するとともに、各分野における国際文化交流を推進することにより、我が国の芸術水準の飛躍的向上を図り、従来の枠組みにとらわれない分野も対象として支援することにより、世界市場におけるシェアの拡大、文化観光による訪日者数の増加を図る。また、2020年のオリンピック・パラリンピックの文化プログラムを見据え、我が国の文化の国際発信を推進する。

## 事業概要

音楽、舞踊、演劇等の舞台芸術や映画、現代アートなど各分野における我が国の優れた芸術文化を世界に発信するため、海外のフェスティバルへの参加・出展、国内における国際フェスティバルの開催、海外の芸術団体との共同制作などの取組に対し支援を行う。

### 国際共同制作支援(舞台芸術)

我が国の芸術団体と外国の芸術団体との国際共同制作公演に対して支援

### 海外国際フェスティバル・展覧会 参加出展等支援 (舞台芸術、現代アート)

海外で開催されるフェスティバルや展覧会への参加や出展等を支援

(例) アヴィニョン演劇祭(フランス)、ヴェネチアビエンナーレ(イタリア)  
アートバーゼル(スイス)



### 国際フェスティバル開催支援 (舞台芸術、現代アート、映画)

我が国で開催される海外発信力のあるフェスティバル等に対して支援  
(例) 東京国際映画祭、アートフェア東京

### **新規** 現代アートの海外発信の推進 (現代アート)

我が国の現代アートの海外展開に関するシンポジウムの開催、現代アートの国際情勢、国際展開に関する調査研究を実施

## 事業の実施

### 【効果】

- 我が国の芸術文化の世界的な評価が高まる
  - 世界における我が国の文化のプレゼンス向上
  - 国民が優れた芸術文化に触れる機会の充実
- 世界への日本文化の普及とインバウンド拡大
  - 世界市場のシェアの拡充
  - 芸術文化への理解増進
- 日本ブランドの向上
  - 心豊かな生活



# 全国高等学校総合文化祭

(26年度予算額 83百万円)  
27年度予算額 83百万円

## 事業の目的

各都道府県代表の高校生による、芸術文化活動を発表する全国大会として「全国高等学校総合文化祭」を開催し、創造活動の向上を図るとともに相互の交流を深めることにより、芸術文化の振興に資する。

### 全国高等学校総合文化祭 優秀校東京公演

○全国高等学校総合文化祭において演劇、日本音楽及び郷土芸能の分野で優秀な成績を取めた学校が一堂に会する公演を実施。



### 全国高等学校総合文化祭

○文化庁、開催地都道府県、開催地市町村等の主催者が実施する主催事業として、総合開会式、パレード、部門別事業、国際交流事業を実施。

#### ◇開催部門

演劇、合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、マーチングバンド・バトントワリング、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、弁論、小倉百人一首かるた、新聞、文芸、自然科学 ほか



### 高等学校文化部活動 指導者養成事業

○高等学校における文化部活動の更なる充実を図るため、部活動の指導者である顧問教員が適切な運営や指導の方法を身につけるための研修会を実施。  
○部活動で外部指導者等が効果的な指導を行う事例集を作成。



## 期待される効果

- ◇全国の高校生が集い、交流し、刺激し合う場を設けるとともに、文化部活動の環境を充実させることにより、高校生の創造活動の水準が向上し、将来の日本文化の担い手の育成に寄与。
- ◇高校生を大会運営に主体的に参加させることにより、高校生の責任感を育み、豊かな人間形成を促進。
- ◇「文化部のインターハイ」として、全国の高校生の文化部活動の活性化に大きく貢献。



# 文化芸術による子供の育成事業

(26年度予算額 5,102百万円)  
27年度予算額 5,112百万円

## 文化芸術は、子供たちの育成に大きな力となる。

- 一流の文化芸術団体や芸術家による質の高い様々な文化芸術を鑑賞・体験する機会を提供することは、**子供たちの豊かな感性・情操や、創造力・想像力を養う**上で大きな効果。
- 芸術家を教育現場に派遣して行う対話や創作、表現に係る体験活動は、**子供たちの思考力・判断力・表現力等の向上や、自己肯定感、社会性、責任感等の育成**に大きな効果。

- 義務教育期間中の子供たちに対し、国として、質の高い文化芸術に触れる機会を、2回（「現代実演芸術」「伝統芸能」各1回）以上提供する。
- より多くの文化芸術の鑑賞・体験が可能となるよう地方公共団体への働きかけなどを行う。将来的には、地方公共団体の自主事業等も含め、義務教育期間中毎年1回は、文化芸術の鑑賞・体験ができる環境を整えることを目指す。

### 1 巡回公演事業

- 国が一流の文化芸術団体を選定し、小学校・中学校等において実演芸術公演を実施。
- 事前に児童・生徒が自ら参加する体験型の活動（ワークショップ）を実施。
- 合同開催を奨励し、効率的により多くの児童・生徒に実演芸術の鑑賞・体験機会を提供。

- 公演種目 14 種目
- 巡回公演数 1,850 公演程度



### 2 芸術家の派遣事業

- 個人又は少人数の芸術家が学校を訪れ、講話、実技披露、実技指導を実施。
- 国、教育委員会と地域のNPO法人等が連携し、学校と芸術家個人や小規模グループをコーディネート。

- 学校公募型 1,400 件程度
- NPO法人等提案型 1,000 件程度



### 3 コミュニケーション能力向上事業

- 学校において、芸術家による表現手法を用いた計画的・継続的なワークショップ等を実施。
- 芸術家による実技披露に加え、児童・生徒が小集団で協働して、課題解決に取り組む活動を実施。
- 創作や小集団での話し合い等のプロセスを重視。

- 学校公募型 100 件程度
- NPO法人等提案型 100 件程度



豊かな創造力・想像力を養う

思考力やコミュニケーション能力など  
社会人としての素養を身につける

将来の芸術家や観客層を育成し、  
優れた文化芸術の創造につなげる

# 2020年の文化プログラムに向けて ～史上最大規模の「文化プログラム」の実現～

27年度予算額 12,008百万円

<考え方> 以下のような目標の下に、文化プログラムに向けた支援等を進める。

[2020年までの目標]

✓ **魅力ある文化プログラムを全国津々浦々で展開**

(国内外の人々を魅了する【例:外国人が、再来日したくなる】プログラムへ2020年に向け**ブラッシュアップ**)

→ そのための**[重点施策]**は、以下のとおり。(組織委員会、観光庁、外務省等の関係省庁と連携)

重点施策① 文化プログラムの**育成**

重点施策② 文化プログラムに向けた**環境整備**

重点施策③ 文化プログラムに向けた**発信強化**

→詳しくは次ページ



[2030年までの目標]

✓ **真の『文化芸術立国』実現へ**

(2020年を越えて、2030年には真の『文化芸術立国』を実現するとともに、さらに日本の文化を求めて来日する外国人を増加させる。)

<スケジュール(イメージ)>

2015年

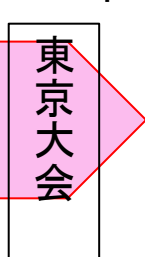
文化プログラムに向け  
た準備・**プレイベント**

2016年



文化プログラム

2020年



日本の文化を求め  
て訪日する外国人  
が年々増加

2030年

真の  
『文化芸術立国』  
実現へ

[現状例]

国内外での知名度  
がない、日本語のみ  
で実施

3つの重点施策  
(上記)で洗練化

[洗練された取組例]

多言語での海外発信や  
舞台解説等、誰でも参加  
体験できるイベント



## 重点施策①:文化プログラムの育成

※ 2020年までを見据えた事業の優先採択

- ✓ 地域の様々な**魅力ある文化芸術の取組**や文化芸術の**担い手の育成**など 2,621百万円(99百万円増)  
 の取組支援  
 例) 国際的な芸術祭、地域の音楽、踊りなどの公演、訪日外国人でも鑑賞・体験できる事業など
- ✓ 芸術団体や劇場・音楽堂等による**トップレベルの舞台芸術活動等** 7,434百万円(10百万円増)  
 例) メディア芸術祭や地方巡回展、若手アーティストなどによる芸術フェスティバルの実施、  
 障害者の優れた芸術作品展など



## 重点施策②:文化プログラムに向けた環境整備

- ✓ 国立文化施設の観覧・鑑賞環境の充実等 510百万円(新規)  
 例) 訪日外国人向け多言語化(サイン表示等)対応、館内展示環境・劇場内観覧環境改善工事等
- ✓ 「国立のアイヌ文化博物館(仮称)」整備 <<2020年開館>> 248百万円(新規)  
 基本設計・設置準備



## 重点施策③:文化プログラムに向けた発信強化

- ✓ 各地域の**文化資源の魅力の再発見**や**活用・発信を促す**  
 ・シンポジウムの開催・公演情報海外発信調査等 25百万円(新規)
- ✓ 芸術文化の**世界への発信** 962百万円(45百万円増)  
 ・海外フェスティバル・展覧会への参加支援  
 例) アヴィニオン演劇祭、ヴェネチアビエンナーレなど  
 ・国際共同制作公演支援 等  
 例) 舞台芸術など

